

このたびの八重山教科書問題にからめて、「あなたは、どっち派？」と聞かれたら、「育鵬社派」「東京書籍派」「どっちでもいい派」のごとだと、思い浮かべるのではないだろうか？ しかし、私たちが問う「あなたは、どっち派？」は、それとは異なる。

月8日の教育委員全員協議が有効であると、揺るがぬ見解に達した。

文科省は、8月23日の八重山採択地区協議会が有効との見解を示しているが、それは、私たちのような細かい調査をした上での見解であつたのだろうか？

一連の八重山教科書問題は、八重山はもちろんで、ひたすら、事実確認をしていった。異なる主義主張の両面から、その両方の主張の根拠を理解しようと、調査を重ねていった。

私たちは、あることに気づいていった。八重山の関係者において、八重山を破壊に追い込もうと思っている人は誰もいないのではないかということ。

そして、私たちは、衝撃的な事実（映像）に遭遇した。8月23日に協議され、そこではじめて選定される教科書なのに、8月1日の時点で「八重山が育鵬社の教科書を取ってくれそうだ」との情報がある筋を通して、育鵬社の関係者にすでに入っていたのだ。

しかも、育鵬社の関係者は、「自分たちが何の働きかけもしていない」と、宣伝行為の潔白を証言する。ならば、こちら八重山採択地区協議会関係者からの漏えい（ろうえい）しか考えられない。

そして、八重山採択地区協議会と育鵬社を結びつける者が存在する。ある筋とは誰だ？

あなたは、どっち派？

市原 由加里

ろんのこと、県内外、それぞれの主義主張、文科省をも入れて見解の違いがあり、混乱していった。そうして多くの方々が、その問題の本質が見えなくなっ

ていったのではないだろうか？

私たちは、その混乱を極める中で、「本当のことが知りたい」一

えさせられた。

協議が行われる以前に、採択対象の7社もある教科書のうちで、1社に選定の可能性の情報が届く。この事実には、子どもたちでもおかしいと気づく。それを子どもたちにどう説明する？

それは、県教育委員会の指導助言により規約も正式に決定しているうちに、しかも静ひつな環境で選定を行うことを理由として私たち市民に何も公開もされないときに、なぜ、教科書会社1社に情報（その社にとっての朗報）が届くのか？

明らかにおかしい！

「平成24年度使用教科書の採択について」の文科省通知を再確認する。「採択権者の権限と責任のもと、適正かつ公正な採択の確保を徹底する」「開かれた採択を一層推進する」とは、見事なかけ離れていると思える。

世間では、このたびの行政訴訟について、原告が、教科書の好み（育鵬社が嫌だから）で、その延長に裁判まで起こしたとの見方もあるようだ。

そして、教科書はどっちでもいい、そんなことで裁判までするのか、という意見もある。原告は、適正かつ公正に採択された教科書の配布を求めているだけである。これは、教科書問題に限ったことではない。どなたも、このたびの八重山教科書問題を横において考えてほしい。

そして、私たちは、八重山の皆さんに問いたい。「不正があつてもいい派？」「よくない派？」「どっちでもいい派？」「あなたは、どっち派？」。これ、子どもたちにも聞いてみましようか？

私たちは、その上

で、民主主義とは何か？をあらためて考えさせられた。

私たちは、その上